

県北地域農林業振興計画に係る取組成果(令和元年度)

1. 中山間地域の特徴を活かした農業の振興

①枝物ブランドの確立

- ◆ J A 常陸奥久慈枝物部会では、平成17年の部会設立以降、右肩上がりに生産者数、栽培面積、販売額を伸ばし、令和元年度の販売額は1.3億円となった。高い市場評価も受け、令和元年7月に茨城県花き銘柄産地に指定された。10月には、部会、関係機関連携のもと「1億円達成及び花き銘柄産地指定記念式典」が開催された。また、ハナモモの生産拡大に伴う出荷施設の増設について、国予算を確保して整備する予定である。
- ◆ ハナモモの若木収量増加を目指し、平成30年に定植樹を横方向に誘引し、開心形に仕立てる実証ほを設置した。令和元年度に2年樹を調査したところ、慣行の138%の増収になることが分かり、若木での収量増加を実証した。
- ◆ 「高校生花いけバトル」について、枝物部会が地元高校生の支援を続け、全国大会まで導いた。11月には茨城県内で初開催され、練習から本番までの花材提供を行った。ショッピングモールでの開催ということもあり、一般消費者に広く枝物の魅力をPRすることができた。



花き銘柄産地指定証交付式



ハナモモの枝を横方向に誘引

②極良食味米産地の振興, 県北米の販路開拓

- ◆ 高温登熟を可能な限り避けるため、遅植の効果などを実証するモデルほ場を管内6か所に設置し、プロジェクトチーム員やオブザーバー等で巡回するなど、極良食味米生産に向けた取組を進めた。
- ◆ 日本穀物検定協会へ出品する米を厳選するため、全サンプル(計16点)から食味官能評価により1点を選定した。結果、「A」評価を取得した。
- ◆ コンテスト出品取組団体や出品支援関係機関に対し、募集状況を情報提供し、米・食味分析鑑定コンクールの都道府県代表お米選手権の部で金賞(トップ14)1点、お米日本一コンテスト in 静岡で金賞(トップ30)を4点(H30は1点)受賞した。
- ◆ 輸出名米向けの多収性品種の栽培確認ほ場を設置し、現地検討会で追肥のポイント等増収技術を指導した結果、720kg/10aという実績が上がり、輸出用米多収コンテストで県内第1位を受賞した。また、輸出名米については、管内で9haまで拡大した。



食味官能評価による米の厳選



輸出名米現地検討会

③和牛産地の振興

- ◆増頭意欲のある農家36戸に対して聞き取り調査を実施し、規模拡大の実現に向けた課題についても明らかにすることができた。これらの取組は、次年度の繁殖雌牛導入による規模拡大に向けた施策化に繋がった。
- ◆新たな和牛繁殖経営の担い手を育成するため、平成23年度から「新規繁殖和牛経営入門講座」を開催。今年度は8名の受講生が、肉用牛研究所での講義や農家体験実習を行った。これまでに延べ92名が受講し、17名の方が受講後新たに繁殖和牛経営を開始するなど、着実な成果を挙げている。
- ◆大子町において、耕作放棄地放牧を活用した飼養管理の効率化・省力化の取組を推進し、放牧面積の拡大（31ha → 38ha）、優良繁殖雌牛の導入（10頭）による繁殖経営の規模拡大を支援した。



新規繁殖和牛経営入門講座
農家体験実習の様子

④有機栽培等による園芸品目の付加価値向上

- ◆いばらきオーガニックステップアップ事業等を活用し、常陸大宮市の三美地区に、県北地域の象徴となる大規模有機モデル団地（5.5ha）を整備した。
- ◆三美地区のほ場を実証フィールドとして位置づけ、牛ふん堆肥を活用した土づくりなど地域循環型農業の実践を支援した。
- ◆農地中間管理機構を活用し、高収益農業（多収、高付加価値）に関心が高い法人を中心にマッチングを進めた結果、有機野菜栽培1法人（常陸大宮市三美地区5.5ha）、かんしょ栽培1法人（北茨城市関本地区3.8ha、高萩市下手綱・赤浜地区4.9ha）の参入が決定した。



堆肥の散布



有機JASマーク

⑤かんしょ産地の拡大

- ◆茨城かんしょトップランナー産地拡大事業について、延べ65名の生産者に対して事業概要を説明し、かんしょの新規栽培や生産拡大を推進した。また、管内6市町の広報紙に事業概要を掲載し、広く周知を図った。
- ◆常陸大宮市において、事業を活用し、荒廃農地の再生を支援した（2件、計0.36ha）。
- ◆市・農業委員会・農地中間管理機構等と連携して荒廃農地等のリストを作成し、事業を活用して農地の確保を支援した（1法人、高萩市及び北茨城市内 計7.2ha）。
- ◆県北地域における令和2年度のかんしょの作付け拡大面積は、9.2haとなった（県北農林事務所調べ）。



常陸大宮市内で
生産されたかんしょ

2. 意欲ある経営体の育成

①北茨城市下桜井地区での基盤整備を契機とした担い手への農地集積

- ◆後継者のある大規模経営体等への農地集積，集約化を図り，貸し手及び担い手の調整を行った。（担い手：10名）
- ◆下桜井土地改良区管内農地での農地中間管理事業導入を前提とし，改良区役員と勉強会を実施。（令和2年度一時利用地指定と併せた農地中間管理権の設定 約19haを予定）
- ◆区画整理，基幹排水施設整備を進め，令和3年4月から基盤整備後のほ場で営農開始する目途がついた。（地区面積28.9ha）



下桜井地区整備状況

②常陸太田市小目地区での農地集積・集約を視野に入れた基盤整備

- ◆農地集積・集約化を視野に入れた換地計画原案を作成し，地権者から100%の同意を得ることができた。
- ◆畦畔やパイプラインの蛇口の位置について担い手の営農効率を考慮して設置するなど，地元との合意形成を図った。（令和2年度一時利用地指定と併せた中間管理権の設定 約16haを予定）
- ◆令和3年4月からの耕作開始を目指し，調整池工事，区画整理工事，ふるさと農道道路改良工事など，基盤整備に着手した。（地区面積21.8ha）



小目地区全景

③JA出資型法人の経営安定に向けた取組

- ◆経営の安定に向け，かんしょ・ニンジンの規模拡大と安定生産に向けた栽培管理指導に取り組んだ。その結果，かんしょは2haから6haへ，ニンジンは0.3haから1.8haと拡大した。
- ◆栽培品目ごとに経営試算を行い，問題点や課題等を担当者と共に共有し，今後の作付計画について支援した。また，今後の対策について，協議しながら進める体制づくりを提案した。その結果，次年度は外国人実習生が入ることを踏まえ，新たに夏作の品目であるナスを導入するとともに，かんしょの栽培拡大を図ることとなった。



市場関係者を招いての
かんしょ目揃い会

④担い手への農地の集積・集約化

- ◆農業参入等支援センターと連携して，県北地域における園芸団地整備事業及びオーガニックステップアップ事業を活用のうえ，県北地域（高萩市，常陸大宮市）に参入意向のある企業を支援し，2社の参入を進めることができた。
- ◆管内市町において，地域の話合いを促進し，農地の受け手や出し手の掘り起こしを進めた結果，令和元年度においては農地中間管理機構を活用して約53ha（見込）の農地を集積することができた。



地域での話し合いの様子

⑤果樹、枝物など、産地のけん引役となる経営体への支援

◆ブドウ

ブドウ（常陸青龍）を栽培する49経営体を対象に、栽培講習会、見回り会、目揃え会による支援を行った結果、品評会において、果実品質平均が一粒重13.8g、糖度17.8度と良好な結果を得た。

◆ほおずき

今年度は、高萩ほおずきを生産する担い手を対象に、新たな加工施設の整備を推進し、フルーツほおずきを材料とした新商品の開発と販路の開拓について支援を行った。その結果、ほおずきジャム・バター・タルトの3品が主力商品として定着し、販売を順調に伸ばすことができ、ほおずき経営の中で加工部門が重要な柱の一つとなった。

◆リンゴ

リンゴの経営体育成では、6次産業化ネットワーク活動事業や農業参入等支援センター事業等を活用し、専門家等の派遣による経営改善に向けた新商品開発や直売所の改善、ホームページの開設等の支援に取り組んだ。

◆枝物

枝物経営体に対し、経営の柱となるハナモモ、ヤナギ等を中心に栽培管理等の指導を通して、収量・品質の向上を図るとともに、積極的なPRに取り組んだ。その結果、産地全体での販売額は1.3億円に向上した。また、新たに2名の新規就農者が枝物栽培に取り組むこととなった。



IBARAKI senseでの
ブドウフェアの様子



加工品の販売状況

⑥個別の支援、指導

◆経営・普及部門では、経営改善により概ね3年以内で所得1,000万円以上の達成を目指す意欲ある15経営体を選定し、新技術や新品目（品種）等の導入や経営規模の拡大や法人化等経営改善を支援した。その結果、3経営体が所得1,000万円以上を達成した。

◆常陸大宮地域農業改良普及センターでは、管内の認定農業者等12経営体を対象に、経営の状況並びに問題点等を把握し、それぞれの経営体に対し課題及び目標を設定し、栽培技術等の個別支援に取り組んだ。その結果、500～1,000万円の階層が1経営体増え、3経営体となった。なお、1,000万円以上の階層は現状維持となった。



栃木県での大規模枝物
先進農家事例研修

3. 中山間特有の地域資源を活用した地域活性化

①観光果樹園芸産地の活性化

- ◆観光果樹園において、「リンゴ園コンサート」を開催した（5月、11月）。「いちにちカフェ」を開設するとともに、消費者へ「魅力ある観光果樹園づくりに関するアンケート」を実施したところ、「満足」「リラックスできた」など好感触であった（回答者数21名）。また、観光果樹園のPRを目的に、JR日立駅でリンゴの無償配布を実施した（11月、ふじ500個）。
- ◆各観光果樹園のインフラ整備状況を調査し、水洗トイレの設置や休憩所の改善等を支援した。また、見本花壇を1か所設置し、景観づくりを推進した。
- ◆日立市中里地区において、おもてなし向上のため、研修会の開催（9月）や「えんがわカフェプロジェクトチーム」の立ち上げ（1月）、消費者向けPR活動（5月・11月、計3回）等を実施したところ、おもてなし向上取組農家数は0戸から8戸に増加した。



リンゴ園コンサート



JR日立駅でのPR

②地場産農産物を活用した加工販売商品の開発、販路拡大

- ◆荒廃竹林の有効活用のため、タケノコ加工技術の習得を支援した（5～2月）。
- ◆「奥久慈大子こんにやくの会」によるこんにやく粉や板こんにやくを使った商品開発検討会において、販売先を見据えた提供方法や地場産原料（粉茶等）の活用、栄養成分表示に関する助言等の支援を行った（5～12月、計9回）。商品化が決定した加工品3点（パン、スムージー、わらびもち風こんにやく）は、大子町内の飲食店や直売所で提供、販売されるほか、5月中旬にはマスコミ向けの発表会を予定している。
- ◆県農産加工品コンクールへの出品を支援し、「柿の丸漬け（常陸太田市：すいふひまわり工房）」が最高位の金賞を受賞した。このほか、事業等を活用し、「りんごまるごバウムクーヘン」や「乾燥ふきの葉」などが新たに商品化され、令和元年度の地域特産品加工品数は計6品となった。



こんにやく入りパン

③都市農村交流等の支援

- ◆ふるさと魅力発見隊の活動として、大子町において、奥久慈茶摘み体験（6/8）、稲刈り体験（9/28）、大子那須栝（こうぞ）加工体験（2/8）を実施し、県内外から延べ60名以上が参加した。
- ◆管内で実施した農林業振興に係る研修会・イベント等について、プレスリリース（計14件）や当所ホームページへの掲載、当所公式Twitter・当所土地改良部門公式インスタグラムを活用し、広く情報発信した。



大子那須栝の皮むき作業

4. 森林施業の集約化などによる効率的な森林整備の推進

①間伐・再造林等の森林整備の推進

- ◆森林組合をはじめとする林業事業体や森林所有者に間伐や主伐後の再造林の必要性等について指導を推進したところ、間伐を607ha、再造林を83ha、間伐作業道を37,886m実施することができた。
- ◆なお、台風19号などによる集中豪雨の影響で林道や作業道が被災し、現地に入れなくなったため年度内に予定されていた間伐約210haが翌年度に繰越となった。



間伐が実施された森林

②安心で安全な県土づくりの推進

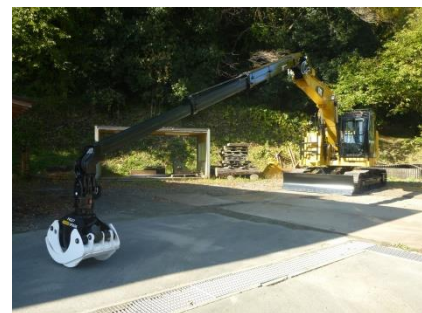
- ◆水源の涵養機能や土砂崩壊防止機能が低下した森林について、5市町で治山事業を実施し、山腹工や谷止工、防潮護岸工などを施工した。
- ◆台風19号などによる集中豪雨により、管内5市町16か所で山腹崩壊や溪流浸食が発生した。特に緊急性の高い北茨城市関本町小川地内ほか5か所については、復旧工事に着手し、その他の箇所は、保全対象や緊急性を勘案し、順次復旧工事を実施する予定である。



流木捕捉型治山ダム

③林業就業者の確保と定着

- ◆木材の生産性の向上と労働災害の未然防止を図るため、施業の機械化について指導を推進したところ、6者の林業事業体で伐採・玉切・枝払い等の複数の工程が1台の機械でできるハーベスタ2台、作業道で木材を運搬するフォワーダ2台、作業道の作設等に用いる機械1台など合わせて8台の高性能林業機械が導入された。
- ◆林業事業体の経営力の向上と林業従事者の確保、育成、定着を図るため、就業後10年以内の林業就業者52名（7事業体）に対して社会保険料等の掛金を助成した。



導入したロングリーチグラブ

④森林経営管理制度

- ◆林業の活性化と森林の適切な管理を図ることを目的として、平成31年4月に「森林経営管理制度」が施行された。この制度は、市町村が森林所有者から経営管理の委託を受けて、林業経営に適した森林は「経営管理権を設定」し、地域の林業事業体に再委託し、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理するものである。本年度は、初年度で、制度の趣旨や事業の実施等をきめ細やかに指導を重ねた結果、2市で森林所有者の意向を確認するための調査が実施され、4市町で意向調査に向けた準備作業を行っている。
- ◆常陸太田市では、市内の自伐林家や国、県、学識経験者等を会員とする「常陸太田市明日の森林を考える会」が設立されるとともに、市内の森林所有者への説明会が実施された。



森林所有者への説明会